

知識と備え 災害時の命綱

9月1日は防災の日。多発する災害に備えて、非常食を蓄えたり、避難する場所やルートを決めたりしている人も多いでしょう。近年、さまざまな災害を経験した日本では、命を守るための知恵や知識は更新され、

技術の進歩や斬新なアイデアが多様な防災商品を生み出しています。こうした中から、知っておきたい情報や便利なグッズを紹介します。

(藤井伸哉、堀内達成)

きょう防災の日

火の始末 最優先にあらず

「まずガスこんろの火を止める」。地震発生時の行動の定番だが、あくまで余裕がある場合の話。熱湯や油が入った鍋、重い食器や包丁の落下、冷蔵庫の転倒…。台所は危険物が多く、無理に火を消しに行くところや閉じ込めの危険が増す。震度5相当以上の地震を検知するとメーターが自動的にガス供給を止めるため、火の始末は最優先とせず、揺れが収まってから落ち着いて対応しよう。



トイレの安全神話 疑って

転倒する家具などがなく、四方に柱があるトイレは家の中で最も安全だとされ、「地震が来たら逃げ込め」とされてきた。だが、マンションなどでは壁だけで柱が入っていない場合もあり、絶対ではない。ドアが変形して脱出できなくなる恐れもある。揺れを感じたら、落下物のないリビングや玄関などで身を守ろう。トイレで用を足している場合は、ドアを開けて閉じ込められないようにする。



固定した家具 過信は禁物

食器棚やたんすなどの家具を金具やボール（突っ張り棒）で固定するのは有効な対策だ。ただ、固定した時点で安心し、その後の点検がおろそかになりがち。年月がたってねじが緩んだり、器具が劣化したりしていることもある。東日本大震災では震度4以上の揺れが3分以上続いた地域があった。家具が徐々に移動して倒れるなど、固定器具が役立たない可能性もあるため、油断は禁物だ。



会社内 コピー機`暴走、も

地震は自宅で起こるとは限らない。最新のビルが倒壊する可能性は極めて低いが、オフィス内では重さ100kg超のコピー機が床を暴走し、キャビネットから大量の書類が落ちてくるかもしれない。キャスターを固定し、キャビネットには飛び出し防止器具を設置したい。ガラスが割れる恐れもあるため、窓から離れ、机の下などで身を守る。避難はエレベーターではなく階段を使おう。



給油所 爆発の可能性低い

地震が起きたとき、ガソリンスタンド（GS）は「爆発しそう」などのイメージがある。だが、消防法や建築基準法の厳格な基準を満たしており、火災や爆発の可能性は極めて低い。阪神・淡路大震災では、火災に見舞われた地域でもGSは燃えず、防火壁の役割を果たした場所もあった。資源エネルギー庁によると、自家発電設備を備え、停電時も給油できるGSが、全国に1万4千カ所以上ある。



繁華街 全方向リスクあり

地震発生時のオフィス街や繁華街は、看板や壁が頭上から落ちてきたり、固定されていない自動販売機が倒れてきたりするなど、危険がいっぱい。歩道に車が突っ込んでくるかもしれない。上下左右、全方向に注意を払い、リスクを減らすことが肝心。かばんなどで頭や首を守り、建物やブロック塀からは離れよう。揺れが収まったら、公園や広場などの安全な場所を探して移動する。



エスカレーター 昇降は危険

エスカレーターは、地震で自動停止するとは限らない。巨大地震では余震が続くため、揺れが収まっても、エスカレーターでの昇降は危険だ。駅ではエスカレーターの先の改札やホームなどが混雑していると、降り口で人が詰まって群衆雪崩が起きてしまう。公共交通の運休が分かっている場合は、「とりあえず」で駅に向かったり、駅で待ったりせず、滞留や混雑を防ぐことも肝心だ。



家具の下敷き 音でSOS

地震で家具などの下敷きになってしまったら、近くにあるスプーンや食器など硬いものでたたいて音を出そう。大声で助けを呼び続けると、体力を消耗してしまい、救助が来たときに大声が出ないこともある。水害で屋根の上に避難した際も、大声を出してもヘリコプターの救助員には聞こえない。人影を確認しづらい夜間は懐中電灯で光を出し、日中は傘を振るなどして知らせよう。



ヘッドレスト使い車脱出

台風や大雨のとき、車で冠水した道路に突っ込み、水没してしまったらパワーウィンドーは使えない。ドアは水圧で開かないため、脱出には座席からヘッドレストを抜き、その軸棒を側面の窓とボディーの間に差し込んで、てこの原理で割る。車内が一定以上水没すると、水圧が下がり足でドアを蹴って開けられる可能性もある。いずれも最終手段なだけに、できれば脱出用ハンマーを備えたい。

